

令和 2 年度 田原西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

- ・基本目標・・・社会の変化に対応しながら，生涯にわたって成長し続けることができるような，知・徳・体の調和のとれ，想像力と実践力に富んだ，たくましく心豊かな児童を育成する。
- ・具体目標・・・子どもスローガン「いきいき にこにこ がんばる子」
- 《目指す児童像》 健康で明るい子 思いやりのある子 自ら考える子 がんばりぬく子

2 学校経営の理念（目指す学校づくりの視点含む）

- 「元気なあいさつが響き，教師も児童も生き生きと学び合う学校づくり」
- 《目指す学校づくりの3つの視点》
- ◇日々の生活にあいさつが響き，明るく活気のある学校
 - ◇子ども一人一人が生き生きとし，学び合える学校
 - ◇楽しく安心して生活ができ，保護者・地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○「第2次宇都宮市教育推進計画」，「第2次学校教育スタンダード」の理念や趣旨をふまえ，明るく活気にあふれる教育活動を実践し，好ましい校風づくりに努める。
- (2) 心豊かに，他者と協働しなら創造的かつたくましく生きていくことをめざし，子ども一人一人が未来の創り手となれるような必要な資質や能力，学力の向上に努める。
- (3) 社会的規範や基本的な生活習慣，健康で安全な生活態度を身に付け，自ら律していける能力をもった児童の育成に努める。
- (4) ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善，愛情と信頼が育まれた学級経営，創意と工夫による教育活動を推進する。
- (5) 児童生徒と向き合う時間を確保し，ワークライフバランスを意識した適正な勤務時間となるように業務を推進する。
- (6) 施設・設備の効果的な活用に努め，学習に効果的な環境のより一層の充実を図るとともに，危機管理を徹底し，安心・安全な学校を目指す。

[田原地域学校園教育ビジョン] 自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 社会に開かれた教育課程の実現のため，家庭や地域社会との連携を図り，相互に補完し合いながら地域に根ざした教育活動の推進に努める。
- (2) 複数の教科等の連携や地域の教育資源を活用しながらカリキュラム・マネジメントを進め，学習の効果を高める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ☆ア 児童が自ら学ぶことの喜びや楽しさを感じることができる活力に満ちた学校づくり
- イ 地域との連携・協働を図った教育課程の編成・実施・評価・改善
- ウ 業務の重点化・効率化等による，教職員の勤務時間の適正化への配慮

【学 習 指 導】

- ☆ア 基礎基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- イ 育成すべき児童の資質能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントの展開と書く力の育成

【 児 童 生 徒 指 導 】

ア 確かな児童理解に基づく一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実

イ 基本的生活習慣の育成といじめ・不登校を生まない指導の充実

☆ウ 明るいあいさつや正しい言葉遣いができ、思いやりをもって行動できる児童の育成

【 健康（体力・保健・食・安全）】（元気アップ教育に係る取組を含む）

☆ア 自分の体に関心を持ち、進んで健康づくりに取り組む児童の育成

☆ 「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 授業において、「宇都宮モデル」を活用して分かる授業を展開し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動を重視する。 ② 学習に関する基本的な行動様式について共通認識を図り、基礎基本を習得する場と時間の確保を行う。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 93.6%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や各委員会における縦割り遊び・給食・清掃における縦割り班活動を通して、異学年間の交流を活性化し、相手を思いやる心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 85.8%、教職員の肯定的回答が 100%であり、目標数値に達している。 【次年度の方針】 ・ファミリー班活動やポイントラリー、縦割り清掃等の充実を図ることで、異学年間の交流を活性化し、思いやりの心の醸成を図っていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 廊下の歩行、チャイム着席を含む時間の厳守を重点課題とし、秩序と安全の大切さについて、根気強く指導する。 ② きまりやマナーを守って行動していることを、児童会活動等で児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を設け、教師を中心に規範意識の醸成を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 95.5%、保護者の肯定的回答が 83.9%であり、ほぼ目標数値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取り組みを継続し、よくできていることを認め合ったり、教師が称賛する機会を作ったりして、児童の自発的活動を取り入れつつ、学校全体で規範意識を高める活動をしていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 児童会で実施する「あいさつサポーター」制度や、PTAや地域と連携を図ったあいさつ運動を推進し、自然にあいさつができる学校を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じたあいさつができるよう、保護者の意識を高めたり、協力を得たりできるような啓発の仕方を工夫する。	【達成状況】 児童の肯定的回答が 92.5%、教職員の肯定的回答が 100%であり、十分に目標数値に達している。 【次年度の方針】 ・十分に達しているが、今年度の取り組みを継続し、登校時、下校時、授業開始時終了時、給食、清掃など、あいさつをする場面でしっかり行うことで、あいさつを積極的に行う態度を育てる。さらに、会釈や気持ちのこもったあいさつなどの指導も続けていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童の能力や取り組みを児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各行事等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 清掃を中心として、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答が 88.7%で目標数値に達しているが、教職員の肯定的回答が 77.3%で昨年度と比べても 13ポイント下がっている。 【次年度の方針】 ・教職員の肯定的回答が下がったが、今年度は「がんばりぬく心」を児童の目標として掲げる等教職員の意識が高まったためと考えられるので、今後も指導を継続していく。 ・学校生活の中で見られた諦めない気持ちや粘り強くやり遂げた活動を意図的に紹介することで更なる向上を目指していく。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。 ② 養護教諭や栄養士と連携した授業を取り入れ、食育や保健指導を充実させ、栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 95.5%、保護者の肯定的回答が 88.0%と十分に目標数値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取り組みを継続し、児童自らが健康や安全に気を付けて生活できるように指導していく。 ・養護教諭や栄養士と連携した授業の取り組みが充実してきたので、今後も継続していく。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答が 88.7%であり、目標数値に達したが、保護者の肯定的回答が 74.4%であり、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・今年は新型コロナウイルス感染症の流行で、家庭や地域社会との連携による体験的活動が実施できなかったことから、今後も今年度の取組を継続し、ライフキャリアを積み上げ、望ましい職業観を育てていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 活動における到達の姿を明らかにし、振り返りを位置づけることで自分の姿をみつめさせ実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 87.7%、教職員の肯定的回答が 100%と目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。 ・業間や昼休みに ALT と触れ合う時間を設けることで、教室で学んだことを生活の中で生かす意識を育む。
	A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答が 76%と目標値を下回っている。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」初年度であり、難しい点も多かった。それぞれの学年で学んだ「宇都宮の良さ」を交流する場を設けることで、探究した結果について情報交換できるようにしていく。 ・宇都宮の魅力に迫れるような活動の工夫や外部人材の活用の仕方を工夫していく。
	A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 授業においてプログラミング教育を年計に位置付け、積極的に ICT 機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は 81.9%と目標値には届かなかったが昨年度より大きく上回った。教職員の肯定的回答が 95.5%と目標値を十分上回った。 【次年度の方針】 ・「ICT は目的ではなく手段である。」という考えに立ち、次年度は一人一台のタブレットを有効に活用した授業をさらに展開していく。 ・第二図書室を「調べルーム」として、タブレットと図書資料の併用をしながら学習を進められるように、古い物は廃棄し、新たな図書資料を整備していく。

目 指 す 児 童 の 姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2①再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 各授業や「感謝の会」等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 85.8%であり、目標数値を達成した。教職員の肯定的回答が 100%であり、目標数値を十分に達成した。 【次年度の方針】 ・今年度は直接的な交流はできなかったが、感謝や相手を思いやる心を高めるための活動を行った。今後は交流も含め、高齢者に対する思いやりの意識を高めていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 教職員が、環境問題や人権教育等の「持続可能な社会」について考えを深めたり学んだりする研修を実施し、指導に生かせるようにする。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答が 82.4%、教職員の肯定的回答が 68.2%と目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・身近な問題や取組と、「SDGs」や「持続可能な社会」というキーワード結び付けるように支援し、児童の意識を高める。 ・年間指導計画にキーワードを書き込み、各教科の中で関連した題材を取り上げていくことで、教える側の教職員の意識を高め、活用していく。
	B1 児童は、時と場に応じた正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた正しい言葉づかいしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童指導主任が中心となって「言葉づかいに気を付けようキャンペーン」を行い、自然に言葉づかいに注意できるような学校を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じた言葉づかいができるよう、保護者の意識を高めたり、協力を得たりできるような啓発の仕方を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 77.8%であり、目標数値を上回った。保護者の肯定的回答が 68.8%であり、目標数値を下回った。 【次年度の方針】 ・正しい言葉を毎日振り返る期間を設けるなどの取り組みを継続していく。今後も保護者と協力し、家庭や地域においても望ましい言葉を使おうとする意識を育てる。
	B2 児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 各学級で休み時間の外遊び、さらに冬季の外遊びを奨励し、児童の意識を喚起する。 ② 運動委員会によるイベントを企画・実施し、運動の楽しさを体験させる。 ③ 各クラスによる共遊(ハッピータイム)だけでなく、縦割り班での共遊の時間も設けて楽しく運動する時間を増やす。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 92.6%、教職員の肯定的回答が 100%と目標数値を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・今後も運動委員会のイベントなど今年度の取り組みを継続し、運動することの楽しさを感じられるように工夫していく。 ・縦割り班での共遊も今年度は充実してきたので今後も継続していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%であり、目標数値を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、特別支援コーディネーターや児童指導主任を中心に、教職員間で共通理解を図り、適切な支援をしていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が95.6%であり、目標数値を上回った。保護者の肯定的回答が82.2%であり、目標数値をわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・次年度は、いじめゼロアンケートの結果や児童集会（今年度未実施）の様子をホームページや学校だより、学年だよりで積極的に発信して保護者に周知する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が95.1%であり、目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・家庭との連携を密にし、今後とも今年度の取組を継続していくとともに、学びポケットを連絡手段として活用する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が、100%であり、目標数値を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取り組みを継続していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が学級で存在感を実感できるように、児童の建設的な自己決定ができる場を設け、自主的・自律的に取り組むよう支援する。 ② 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を積極的に実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 92.6%、保護者の回答が 89.5%と目標数値を上回った。また、どちらの数値も昨年度より高くなっている。 【次年度の方針】 ・今年度からファミリー班活動が始まり、月に一度の縦割り班活動が充実したので、今後も取り組みを継続していく。
	A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 各教科において、基礎・基本の定着を図るとともに、活用する力も育めるよう、指導方法の工夫改善に努める。 ② 算数科におけるＴＴ，少人数，習熟度別等の学習形態を工夫し、分かる授業を展開する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 96.6%と十分目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。 ・引き続き、ピカイチ板書、ピカイチノートを利用して教師の授業力向上に努める。
	A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム田西」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員の協働性を高めることに視点を置き組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。 ② 一人一授業を通して、効果的な言葉かけや板書を教職員に伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後の研究会で、成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が 95.5%であり、目標値を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・一人一授業を通して、授業者の研究成果を教職員に伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後の研究会、成果や課題について相互に意見を交換し合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。
	A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が 90.9%であり、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・学習情報システムを有効活用して、情報交換、文書作成、アンケートの実施、校内掲示板の利用等、業務の効率化を図っていく。 ・新しい生活様式に沿った各種行事等の実施方法の改善を行う。

目 指 す 学 校 の 姿	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 田原地域学校園ビジョンに基づき、自ら進んで何事にも取り組むことを重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 田原中学生徒会の協力による「あいさつ運動」や6年生の進学先中学校訪問等の取組について、学年だよりやHPなど様々な機会を捉えて積極的に発信し、理解を深める。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答が90.9%であり、目標値を上回った。保護者の肯定的回答が84.0%であり、目標数値を下回った。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式に基づいて、地域学校園内の相互支援体制の見直しを図る。 ・6年生の中学校訪問やあいさつ運動など、交流を主とする取組についてはZOOMを利用した内容を工夫するなどして改善を図る。 ・各分科会における交流活動の充実をさらに図り、互いの理解を深める。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っていく。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などにおいて学校支援ボランティアを有効に活用し、実施したことを地域連携年間指導計画に書き加えていく。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答が83.4%であり、昨年度より0.7%上がったが、目標数値には届かなかった。地域住民の肯定的回答が100%であり、目標数値を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・地域協議会を年4回開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。 ・家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していく。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。【A22①再掲】 ② 地域や学校支援ボランティアを有効に活用し、実施したことを地域連携年間指導計画に書き加えていく。 【A22②再掲】 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答が83.4%であり、目標値を上回った。地域住民の肯定的回答が100%であり、目標数値を下回った。 【次年度の方針】 ・地域協議会を年4回開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。【A22再掲】 ・家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していく。【A22再掲】 ・町探検、田植え体験、豆腐作り体験、福祉体験等において家庭・地域・企業等と連携し、有効に活用していく。

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策、予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答が93%と目標数値を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・今後も安全点検や避難訓練を計画的に行い、安全に配慮した環境づくりに努める。また、熱中症や各種感染症等の予防対策も徹底していく。
目指す学校の姿	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実、児童の意欲喚起のための啓発を含めた学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	B	【達成状況】 A10①と同様 【次年度の方針】 ・「ICTは目的ではなく手段である。」という考えに立ち、次年度は一人一台のタブレットを有効に活用した授業をさらに展開していく。 ・第二図書室を「調べルーム」として、タブレットと図書資料の併用をしながら学習を進められるように、古い物は廃棄し、新たな図書資料を整備していく。 【A10再掲】
本校の特色・課題等	B3 児童は、進んで家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、進んで家庭学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 年度当初に保護者向け「家庭学習のすすめ」や児童向け「自主学習メニュー」を配付し、家庭学習に積極的に取り組めるように支援する。 ② 家庭学習の内容から児童のよさや努力していることなどを紹介し、称賛したり伝え合ったりすることにより、成果を認め励ます機会の充実を図る。 ③ 家庭学習強化週間を設けて保護者に呼びかけ、学校と保護者が協力し合って定着を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が74.9%、保護者の肯定的回答が65.8%と目標値を大きく下回った。「進んで」という指標の見直しも必要と思われる。 【次年度の方針】 ・家庭学習の大切さを理解させ、意欲がもてるように継続して『家庭学習強化週間』を実施していく。 ・家庭学習は発達段階に応じて自主的な学習へと変化していくものであり、「進んで」やるという理想の姿よりも、誰もが「忘れずに」やれるように、自主学習と宿題の出し方を工夫するなどしていく。

	B4 児童は、本を読むことが好きである。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、本を読むことが好きです」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 図書室の活用はもちろん、週1回の朝の読み聞かせ・朝の読書や外部人材の活用を通して、読書指導や言語環境の充実を図る。 ② 校内読書週間を設けて、児童に図書室利用を啓発するとともに、図書委員会による様々な取組を行う。 ③ 児童の意欲を高めるよう読書センター、情報センターとしての機能を充実させる図書室の整備を行う。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は78.8%と目標値を同等であったが、保護者の肯定的回答が64.4%と目標値を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・「家読」の取組が始まったばかりである。今後も、家庭を巻き込む工夫をしながら継続していく。 ・図書室で借りた本を家庭に持ち帰る児童を増やし、校内だけでなく家庭で読むよう働きかけていく。
	B5 児童は、「田西っ子プライド」を意識して行動し、田西小の一員であるという自覚をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、「田西っ子プライド」を意識して、「気づく心・思いやりの心・頑張りぬく心」を発揮して生活しています。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「田西っ子プライド」の具体的な姿を分かりやすく示すとともに、粘り強くやり抜くことを意識して生活できるよう、向上心や自尊心の醸成を図っていく。 ② 清掃や縦割り班活動を通して、「気づく心・思いやりの心・頑張りぬく心」を意識した声掛けを行ったり称賛をしたりし、3つの心を育むようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が88.6%、教職員の肯定的回答が100%で目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・表彰を受けた児童の写真を、年間を通して廊下に掲示することで、「田西っ子プライド」である向上心や自尊心の醸成を図っていく。また、いろいろな行事や活動で、3つの心を育んだ児童を称賛する場を設ける。 ・日々の活動を通して、「田西っ子プライド」を意識したふり返りを行うなど、3つの心を育むために教職員が意識する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け「気づく心・がんばりぬく心・思いやりの心」を合言葉とし、児童一人一人が「田西っ子プライド」を意識し、自ら学ぶことの喜びや楽しさを感じることができる活力に満ちた学校づくりを目標として教育活動の充実を図ってきた。また、地域との連携・協働のもと、一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実に努め、思いやりをもって行動できる児童の育成を目指してきた。

そうした中、今年度は保護者や地域の方々の学校参観の機会が大幅に減少するなど、学校評価にも大きく影響を及ぼす要件が見られたが、昨年に引き続き保護者や地域住民の肯定割合は高く、全体に良い結果であった。

児童の評価では、「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。(A14)」「教職員は、一人一人を大切に、ともに認め励まし合う学級経営を行っている。(A15)」「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。(A18)」が特に高い値であった。合言葉をもとに地域・保護者と協働して教育活動に取り組んできた成果と思われる。

7 学校関係者評価

第3回地域協議会時オープンスクールとして学校の様子を参観していただくとともに、学校行事や今年度の取組をまとめた資料を配付して概要を説明した後、地域の方の評価をいただいた。第4回地域協議会では、宇都宮学校マネジメントシステム全体アンケートの結果を説明する運びとなっていたが、書面開催となったため本校評価書・自己評価を送付し、意見をいただいたところ、ほとんどの項目で肯定的回答が高く、児童や先生方・地域の取り組みが効果を出しているという意見を多数いただいた。

【参考となるご意見】

《家庭学習について》

・学校から、家庭学習についての情報の発信を増やし、保護者と学校の連携をさらに強化して、進んで家庭で学習するように

なるとよい。

・「進んで取り組む」ということは、「言われる前にやったか」、「求められる以上のことがやれたか」である。児童なりのプラスワンができたらず、認めることが大切だと思う。

《読書について》

・児童が本好きなことは読み聞かせ活動等で感じている。家庭で、スマホやゲームの時間を決めるなど話し合い、約束をすることがよい。保護者に読書の大切さを訴えることが大切。

・保護者が本を読む機会やきっかけをもっと増やす必要があると思う。親子で一緒に読める本、親にお勧めの本などを司書の先生に紹介していただくなど、読書の楽しさを家庭を巻き込んで伝えてほしい。

《環境・人権問題について》

・自然環境の悪化を感じている毎日である。環境問題は今後の世界・地球にとって大変重要なテーマである。小学生のうちから興味をもつように指導してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、昨年度より良い評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者、地域協議会委員の皆様から頂いたご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

・学校教育活動への理解が深まるよう、学習状況や児童の様子などをこれまでの学校だよりやホームページだけでなく、ICTを活用して、保護者により積極的に情報を発信していくよう努め実践していく。

・家庭においても読書の楽しさを感じられるよう、家庭と連携した取組を工夫するなど家庭を巻き込む「家読」への取組を進め、読書への取組の工夫・充実を図っていく。

・児童の学びに向かう意欲を高めるために、日々の活動において「課題の明確化」、「振り返り」に着目し、児童主体の活動が活性化されるような授業展開に努める。

・児童がいきいきと充実した学校生活を送れることを目指し、授業や様々な活動を通して、一人一人の自己肯定感を高められるように認め・励ます担任のアドバイスやコメントを継続するなど、児童一人一人のよさや努力を認め励ます指導や支援を継続していく。

○,新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、あいさつ運動を地域学校園で協力し合うことができなかったが、ZOOMを利用したリモートでの交流などICTの活用を通して検討していく。また、あいさつを自然にできるようにする目標だけでなく、場に応じた正しい言葉遣いについて1年間を通して地域学校園で連携を継続していく。